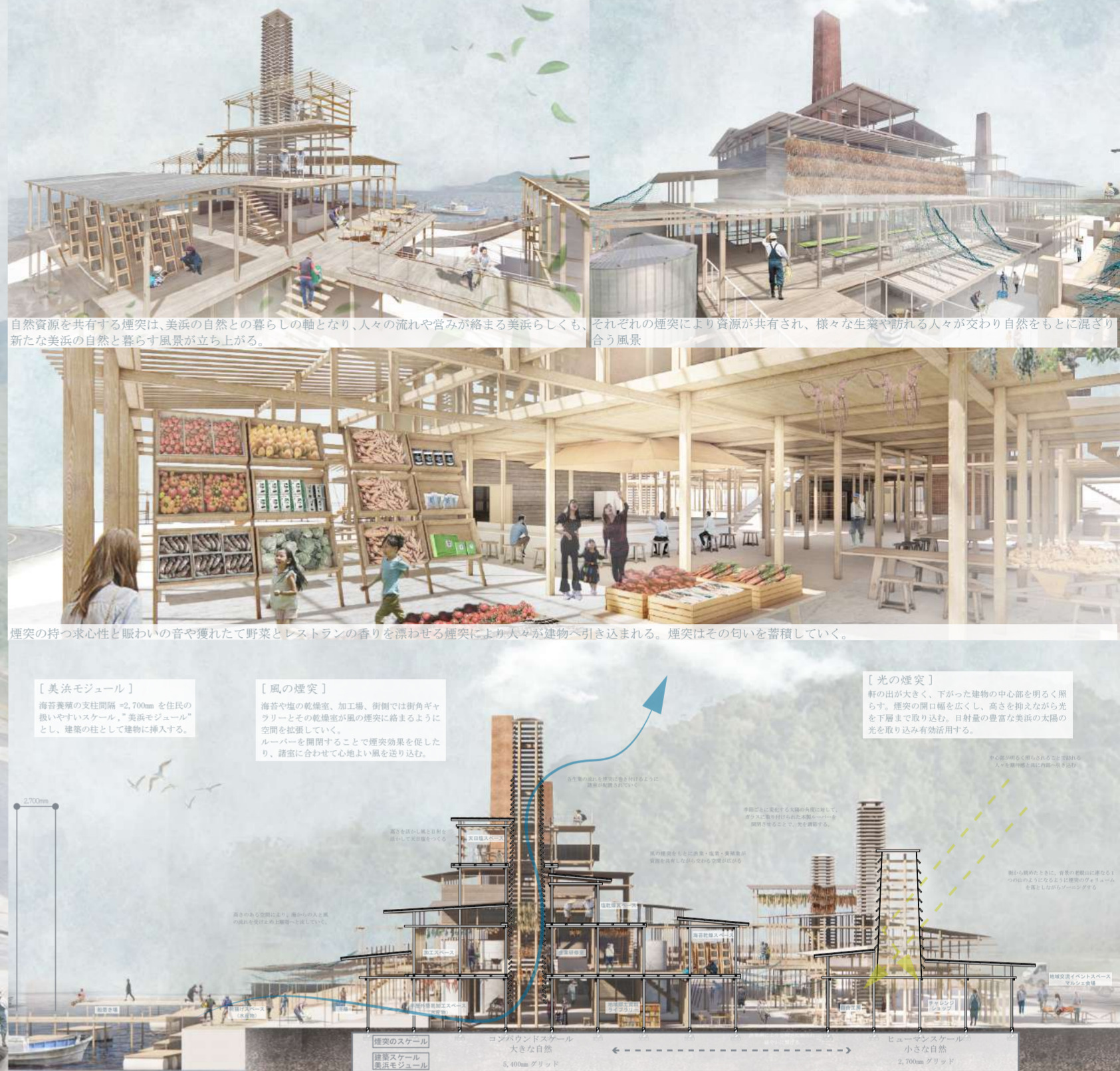


煙を灯す

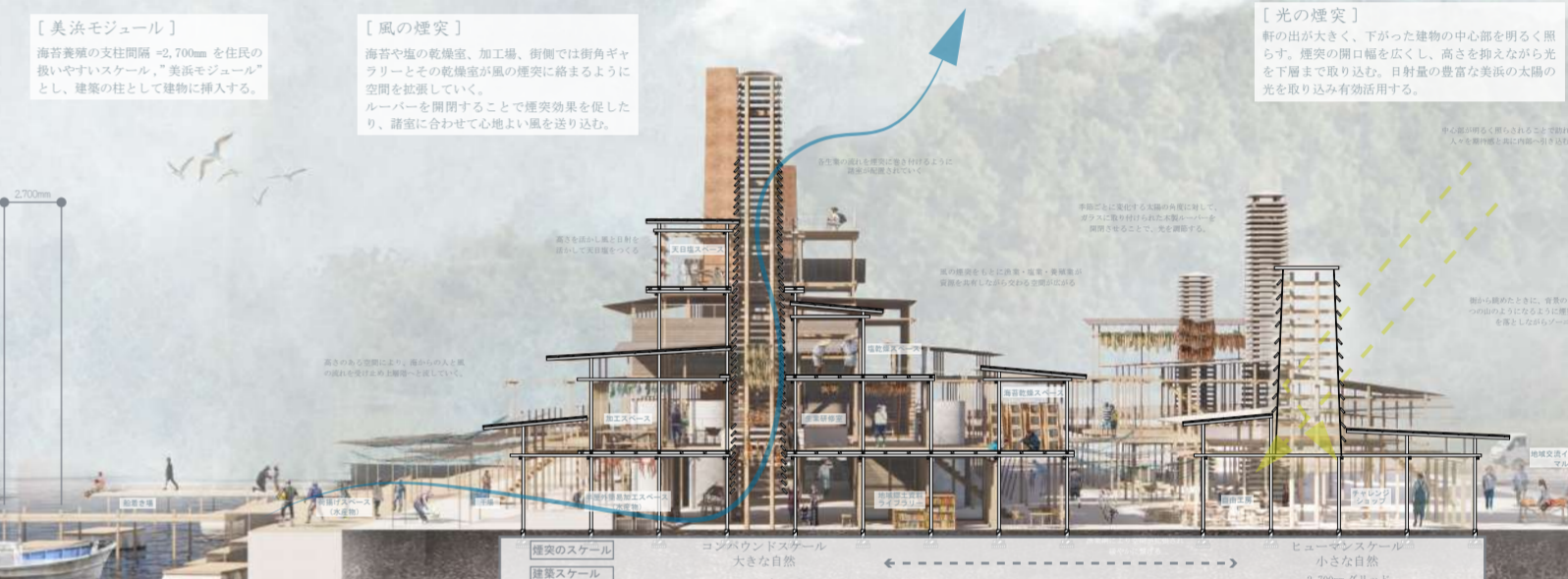
- 煙突から始まる自然との暮らしの提案 -

暮らしのなかで生まれた術は、必要ないと考えられるとすぐに切り捨てられてしまう。今ある暮らしの風景も、人間の取捨選択により失われていくかもしれない。そう感じた時、私は生き生きと暮らす故郷の風景を眺めながら寂しさを抱いた。本提案では、美浜の暮らしを支え明るく照らし、失われてもお煙のように人々の記憶に残り続ける煙突をもとに、失われつつある美浜の生業文化を紡ぐ生業拠点を計画することで、美浜の豊かな自然との暮らしを再び灯す。



自然資源を共有する煙突は、美浜の自然との暮らしの軸となり、人々の流れや営みが絡まる美浜らしくも、それぞれの煙突により資源が共有され、様々な生業や動れる人々が交わり自然をもとに混ざり合う風景

煙突の持つ求心性と賑わいの音や獲れたて野菜とレストランの香りを漂わせる煙突により大がけ建物へ引き込まれる。煙突はその匂いを蓄積していく。



【美浜モジュール】
海苔養殖の支柱間隔 4.700mm を住民の扱いやすいスケール、「美浜モジュール」とし、建物の柱として建物に挿入する。

【風の煙突】
海苔や塩の乾燥室、加工場、併用では粗角やワラリとその配座が風の煙突に絡まるように空間を設計している。建物の柱として建物に挿入する。ルーバーを開閉することで煙突効果を生じたり、扉を開けて心地よい風を送り込む。

【光の煙突】
軒の出が大きく、下がった建物の中心部を明るく照らす。煙突の開口幅を広くし、高さを抑えながら光を下層まで取り込む。日射量の豊富な美浜の太陽の光を取り込み有効活用する。

01 計画敷地 豊かな自然と暮らす地域

01-1: 愛知県知多郡美浜町

計画敷地全体図

【常滑街道】
名古屋と知多半島を結ぶ国道
美浜町の主要道路になっている

野間灯台

農業エリア

住宅エリア

計画敷地

海水浴エリア

漁業エリア

【海苔養殖業と漁業】
遠浅な海岸線で潮通しも良いため海苔養殖と漁業が盛んに行われているエリア

計画敷地は愛知県知多半島の南部に位置し、伊勢湾と三河湾に挟まれた美浜町を対象とする。美浜町では豊かな自然の恵みを受けながら、複数の生業を生み出し自然と暮らしてきた地域である。

01-2: 美浜の暮らしを支えた塩づくりと煙突風景

かつて美浜町では、遠浅な海岸線を利用して塩づくりが行われており、海沿いは塩田と塩小屋から出る煙突風景が広がっていた。その煙突は煙を排出するだけでなく、風や太陽の光を暮らしの頼りにしていた当時の漁師の帰る場所を示し、農家や住民、塩職人や漁師が集まる憩いの場として利用されていた。しかし、その素材の汎用性の高さから需要が高まり、イオン交換膜法による工場製塩へと移り変わり、により美浜町の塩田と煙突風景は姿は失われていた。

産業化により失われた煙突風景

02 計画概要 自然との暮らしと共生関係の再考

02-1: 煙突からはじまる自然との暮らし

過去：塩づくりの煙突をもとにそれぞれの生業が交わり暮らす美浜の拠点

現在：埋め立てにより漁港が建設されそれぞれの生業は交わらなくなり、規模が縮小しつつある農地や港はソーラーパネル事業により埋め立てられようとしている。

提案：失われてもお人々の記憶に残り続ける煙突をもとに、住民や観光客が混ざり合い自然と暮らす美浜の拠点を再編する。

ここで本提案では、美浜の暮らしを支え明るく照らし、失われてもお人々の記憶に残り続ける煙突をもとに、失われつつある美浜の生業文化を紡ぐ生業拠点を計画することで、美浜の豊かな自然との暮らしを提案する。

時代の流れと共に役割を変えながら暮らしを支えてきた塩のように、美浜の風景を形成してきた生業文化と、そこから生まれた暮らしの術が更新されることで、美浜の凝り固まった風景をほぐし、その価値の再認識により、現在から連続した新たな美浜の風景が立ち上がる。

02-2: 新たな産業のかたち / 煙突集約型産業による相合持(あいあいかせぎ)の再考

農業 相合持 漁業
自然資源の共有 共生関係
塩業(塩田)

生産 販売 加工 産業的連関 販売 加工
生産 塩業(工場) 販売 加工

近世初期 現在

自然資源共有による有機的な繋がり

六次産業化 自然資源と空間の共有

提案：自然資源という共通項をもとに各生業空間を再編

かつて美浜町では、相合持(あいあいかせぎ)という自然資源を共通項を持った生業同士が資源を共有しながら生活をする共生関係を築いていた。しかし、経済社会の産業化により、連関は閉ざされ、それぞれの産業の繋がりは失われつつある。

そこで、本提案では産業拠点を集約することで、かつての相合持の共生関係を踏襲し、自然資源と産業空間の双方を共有する。それにより、失われた産業間のつながりを生み出し、六次産業化や新商品開発を促す。自然資源という共通項をもとに再編された繋がりは、完結的な全体性を持たず、敷地周辺との有機的な結びつきが生まれ、自然との暮らしを再生されていく。

03 設計手法-1 美浜の暮らしの風景から立ち上がる新たな風景

03-1: 美浜の暮らしと風景構築プロセス

フィールドワークを通して、美浜の風景を構築している要素と、そのプロセスについて分析する。生業に不変の工程があるように、美浜の歴史の連続性の中で建築を立てることで、人間の取捨選択により失われていくのではなく、美浜の暮らしを更新し、紡いでいく建築を目指す。

リサーチのまとめ

03-1a. 美浜の暮らしを構成する要素

美浜の暮らしの風景は、豊かな自然を生かした生業文化と、それから生まれた暮らしの術が、長い間美浜の風景を形成していた。

03-1b. 美浜の風景の構築プロセス

既存の建物に増築された小屋 網に付着し成長する海苔

軸に絡まる美浜の風景

既存の家屋や工場の軒先を伸ばして増殖するように絡まり拡張される仮設空間、高い建物が無い美浜の灯台のもとに集まる人々。このように美浜の風景は、ある軸に対して人々の営みが絡まりながら形成されてきたことがわかる。

03-2: 生業拠点の再編手法

1: 美浜町が市町村合併される前の市町村数をもとに煙突を設計のコアとして立ち上げる。

2: 海苔養殖の支柱が、住民の扱いやすいスケール・美浜モジュールとして、建築の柱が煙突まわりへ挿入されていく。

3: 煙突に人々の営みが絡まるようにスラブが挿入され活動がまとわり付く。部分的に屋根が挿入されたり漁業網・乾物が干され空間が拡張する。

本建築では、長い間美浜の風景を形成してきた塩づくりの煙突を、熱、光、風、音、匂いを循環させ共有する煙突として更新し、設計のコアとする。そこへ海苔養殖の支柱から得られた美浜モジュールをもとに、人々の営みが絡む建築の柱として挿入していく。排熱だけでなく、光や風といった自然豊かな美浜の暮らしに欠かせない自然資源を共有する煙突を軸にスラブが挿入され、屋根が掛けられる風景は美浜らしくも現在から連続した新たな美浜の風景が立ち上がる。